

国家試験対策委員会 —平成 28・29 年度活動報告—

永瀬 澄香*

1. 国家試験対策委員会の目的と具体的業務

国家試験対策委員会は、日本臨床検査学教育協議会の中で 11 部門ある委員会の一つである。本委員会は、臨床検査技師教育に関わる国家試験対策研修等を行うことにより、検査教育の向上を図ることを目的として活動している。具体的な業務は、主として模擬試験問題作成・編集(以下、模擬試験作成と略)実施に関わること、その他、必要とする試験対策等に関するを行うことである。

国家試験対策模擬試験作成は、これまで近畿中国四国部会の先生方が中心となってお尽力されてきたが、平成 27 年度から国家試験対策委員会として全国展開するようになった。各施設のご協力の元、全国で多くの科目担当の先生方に、問題作成および問題編集に関わっていただきたいと願っている。本委員会は、会員校の先生方にアンケート調査を行い、全国の先生方とともに連携を取りながら、さらに充実した模擬試験作成業務に取り組んでいきたいと考えている。

委員会の任期は 2 年であり、前年 11~12 月から翌年の 10~11 月(基本方針)までを担当し、12 月からは次年度の国家試験対策模擬試験作成に向けて新しく委員会がスタートする。本委員会は模擬試験作成要領を 12 月開催の臨時総会に提出するなど、早めに次年度の活動を開始する必要があるため、委員の任期交代は他の委員会に比べ、少

し変則的な時期になる。平成 26 年・27 年度は埼玉県立大学 松下 誠先生が国家試験対策委員長として、委員会の模擬試験作成を担当されてきた。今回、前委員長松下先生より引き継ぎ、平成 28・29 年度の委員長として、活動内容、改善点や今後の展望等についてお伝えしたい。

2. 平成 28 年度、平成 29 年度の活動報告

平成 28 年度の模擬試験作成においては、平成 28 年 2 月に会員校 83 校に対し、アンケート調査を実施した。そのうち 45 施設から回答があり、37 施設から問題作成可能であるとの返答をいただいた。この結果を基に国家試験対策委員会によって、科目ごとに問題 A(200 問)、問題 B(200 問)の作成依頼者および問題編集者の検討を行った。平成 28 年度模擬試験作成の依頼は、30 施設 54 人(内女性：11 人)の先生方に 5 月初旬に依頼した。全国展開となって 2 年目であるが、近畿中国四国部会所属会員校が 11 校 15 人、その他、九州、関東、北陸中部部会所属の会員校では、計 19 校 39 人の先生方にご協力いただき、全国の多くの加盟校が模擬試験作成に参加してくれたことは、大変意義深いことであったと思う。

平成 29 年度の国家試験対策委員会は、平成 28 年度と同様に 7 名の委員が模擬試験作成を担当することになる(表)。

平成 29 年度は、全国展開して 3 年目の国家試験対策模擬試験問題作成であり、さらに改善でき

*平成 28・29 年度委員長、川崎医療短期大学臨床検査科 nagase@jc.kawasaki-m.ac.jp

表 平成 29 年度 国家試験対策委員会(7名)

氏名	所属	専門領域など
松下 誠	埼玉県立大学	教育協議会統括副理事長
永瀬 澄香	川崎医療福祉大学	委員長、臨床化学
小澤 優	京都保健衛生専門学校	副委員長、一般検査学
松尾 収二	天理よろづ相談所病院	委員、臨床検査医学総論
高岡 榮二	高知学園短期大学	委員、臨床血液学
新井 智子	埼玉県立大学	委員、臨床免疫学
小林 隆志	東京医学技術専門学校	教育協議会事務局、臨床微生物学

る点は今後改め、多くの会員校の先生方に模擬試験作成を担当していただきたいと考えている。教育学会においても科目別分科会等で意見交換を行い、お互いに交流を深めている。科目毎にどのような点が臨床検査技師教育に重要であるのか、最低限学生が習得すべき知識・技能・必要とされる基礎的学内実習や臨地実習内容等についても例年討議を深めていると推察する。教育協議会として全国で同じ科目を担当する教員同士が繋がりを持ち、検査教育の向上を図り実習内容等も検討していくことは重要であると感じる。このように科目別分科会等の連携が深まれば、さらに、今後本委員会の模擬試験作成にあたって、問題内容を討議ししやすい環境が整ってくるのではないだろうか。教員間の連携は、とても意義深いことであると思っている。現在は全国 85 校が教育協議会に加盟している(平成 28 年 12 月)。その内訳は、3 年制会員校 29 校(短大 5 校、専門学校 24 校)、4 年制大学会員校 56 校(国立：20 校、公立：3 校、私立：33 校)である。

平成 28 年度、学生の国家試験対策として、本協議会の模擬試験を購入した会員校は 61 校(大学：38 校、短大：4 校、専門学校：19 校)で発行部数は合計 3184 部であった。全国の養成施設の学生定員数から推定すると、約 70%の学生がこのたびの模擬試験を利用していることになる。平成 27 年度に比較すると購入部数が増加傾向にあり、全国展開して 2 年目で本協議会の模擬試験が全国に普及していることはとても有難いことであると思う。

3. 平成 28 年度国家試験対策の改善点

平成 28 年度は新たに埼玉県立大学より 1 名の先生に委員として加わってもらい、7 人で国家試験対策委員会を担当することになった。

平成 28 年度国家試験対策委員会の模擬試験対策では、平成 27 年度の実施内容を振り返り、様々な改善を試みた。以下にその改善点を紹介する。

- ① 模擬試験作成のタイムスケジュールおよび組織図を明らかにし、全国加盟校に参加を呼び掛ける。
- ② 模擬試験作成・編集担当者を決定するに当たり、アンケート調査を実施し、これまで直接ご本人に依頼していたが、平成 28 年度からは、その施設連絡責任者を通して依頼するように変更した。これは、施設連絡責任者に施設教員の問題作成者・問題編集者を報告することおよび問題作成作業の進捗状況を把握していただき、施設内でのご理解とご協力を得られるようにすることを目的としている。
- ③ 模擬試験作成要領をわかりやすく改定した。問題の出題内容と順序、書式設定等の注意事項を詳細に記載した。また、五肢択二問題や否定型問題の比率や難易度分類と出題割合を概ね設定し、出題者の判断で出題してもらうように依頼した。
- ④ 科目毎に問題作成入力フォーマットのワード文書を新たに作成した。問題番号は先に入力し、書式設定を明確にして作成者が問題作成しやすいように入力ファイルを指定した。

- ⑤ 問題作成入力ファイルは午前と午後で科目名、問題番号を色分けし、問題の最後の行に解答番号を入力するように設定した。選択肢は先に設定し、入力時に問題番号ミスや行間のずれが生じないように改善した。作成者および編集者が、問題入力と解答番号を確認しやすいように工夫し、書式設定など編集作業を簡略化させた。
- ⑥ 解答解説ファイルも同様に入力フォーマットを定め、問題番号等のずれが生じないようにファイル設定した。作成者は解説と解答を入力後、ファイルを上書すればよいように、入力作業を簡略化した。
- ⑦ 問題作成の雛形の様式を見直し、問題入力見本ファイルを作成した。入力書式、五肢択一問題、五肢択二問題、否定型問題等の入力例を示し、作成方法をわかりやすく工夫した。
- ⑧ 問題作成、問題編集のチェックリストを新たに作成し、担当者が入力、編集ミスを防ぐため、書式等を含めチェック項目内容を確認できるようにした。
- ⑨ 問題編集者は、作成された問題を校正する。問題編集において、問題の修正や変更点がある場合は、必ず問題作成者と問題編集者間で連携を取り、相互理解と最終確認をした後、試験問題を最終提出するようお願いした。
- ⑩ 国家試験対策委員会は、問題の最終編集作業を行い、印刷時の最終校正を実施した。

4. 模擬試験作成の役割分担と課題

模擬試験作成に関する役割分担は下記の通りである。なお、模擬試験作成の組織図を図に示す。作成者、編集者の先生方が相互に連携し、協力体制をとっていただくことが大変重要である。先生方のご理解とご協力があればこそ、模擬試験が無事完成できたものと思う。

1) 問題作成者

模擬試験問題の作成を作成要領に従って行う。問題作成には、問題に添付する写真や図表の作成、解答の作成、及び解説の作成を含む。作成した問題は、チェックリストで確認後、問題編集者に送付する。

2) 問題編集者

問題作成者が作成した模擬試験問題の校正、変更、及び編集等を行う。なお不適切問題等が認められた場合は新規で問題作成も行うこととする。問題の校正、変更等の際は、問題作成者にその確認をとる。編集が完了した問題は、チェックリストで最終確認後、国家試験対策委員会に送付する。編集者の先生には、校閲を兼ねて、試験問題全体をよく確認していただきたい。

3) 次年度に向けた課題

2月上旬に模擬試験作成のためのアンケート調査を会員校に送信しているが、平成28年度のアンケート調査の回収率は54%であった。提出期限までに多くの施設から回答してもらうように、再度返信を依頼する必要があるだろう。平成28年度、問題編集者の校正・編集が不十分であった科目問題も一部分あったが、今後、先生方のご協力により改善できるものと思っている。平成28年度は前年に比較すると、多くの改善点を提示することにより、担当者の先生方には項目チェックリストに従い、確認作業を確実に実行してもらったため、模擬試験作成の作業効率が上がリ、書式入力ミス等が減少したように感じている。その際、問題内容の吟味に時間を費やすことができたように考えられる。今後、模擬試験担当者へのアンケートも検討していきたい。

5. 模擬試験作成の意義と今後の展望

臨床検査技師国家試験合格率は、他の医療職の国家資格に比較すると低い傾向にあり、難しい資格の一つであると言えよう。臨床検査技師に重要な基礎および専門知識をしっかりと習得し、必要な技術、技能を身に付け、全国でより多くの学生が国家試験に合格し、勇気と夢を抱いて力強く社会に飛び立つことを願っている。そして、全国で日本の医療を支える前途ある若者が立派な臨床検査技師、研究者として医療の現場で活躍することが、今後さらに期待されるであろう。教育機関である各施設には、3年制、4年制ともにそれぞれ確固たる理念と果たすべき使命があるように思う。そして、本協議会模擬試験が、日々熱心に教育に携わる全国の先生方による国家試験対策として、

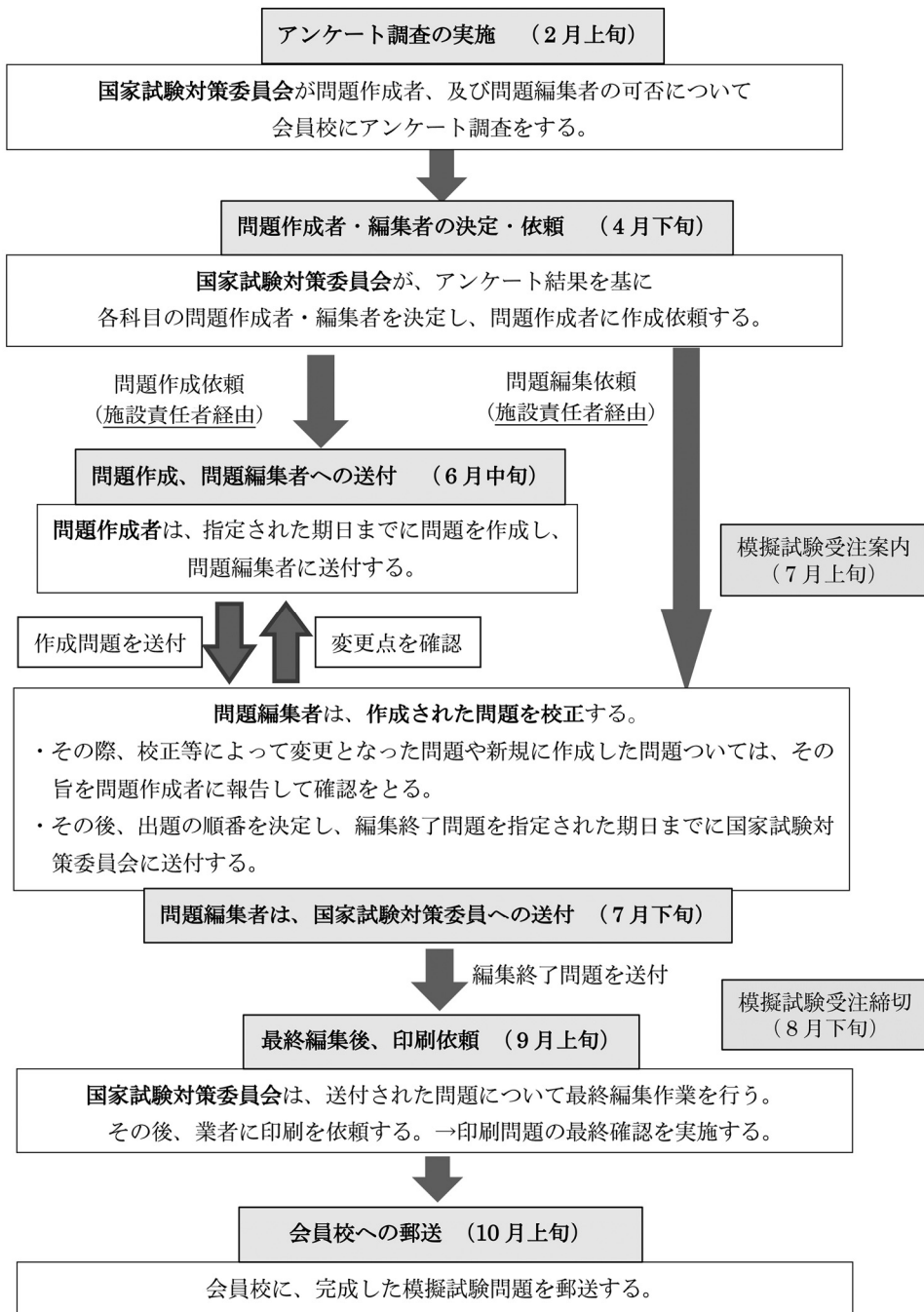


図 模擬試験の作成の組織図

多くの会員校で国家試験合格を目指して懸命に努力している学生のために、有効活用してもらうことが大切であると考えている。

平成 29 年度は、全国展開して 3 年目となり、さらに、多くの先生方が問題作成、問題編集に関わり、互いに同じ科目担当者間で連携、協働を図り、問題の質と校正力を高め、より完成度の高い模擬試験が作成できれば大変意義深いことであると思っている。先生方の幅広いご意見、ご助言をいただき、委員会として改善できる点は前向きに熟慮していきたい。模擬試験作成を担当する責務の重さを感じているが、多くの先生方のご厚意に支えられ、国家試験対策委員会として、全国の臨床検査を学ぶ学生のために、今できることは精一杯努力したいと思っている。将来に明るい希望と夢を抱き、日々努力している全国の多くの学生にとって、安価(解答解説付き 2 セット: 1600 円)で購入でき、先生方のご協力で完成する本協議会の模擬試験が、国家試験合格に向けての学習に必

ず役立つものと信じている。

さらに、平成 29 年度担当するに当たり、より充実した模擬試験作成が実施できるよう、全国の先生方のご理解とご協力をあらためてお願いしたい。各科目担当者間の連携、協働を深め、全国の先生方の賛同をいただき、今後の道筋として全国展開することが定着し、国家試験対策の一助となれば幸甚である。多くの医療職の中で、臨床検査の重要性をさらに高め、人間性豊かな臨床検査技師の育成を目指して、今後の本協議会の更なる発展を願いながら国家試験対策委員会の果たすべき役割をしっかりと認識して、全国の先生方とともに教育に対する情熱と志を高く掲げ、歩んでいきたいと考えている。平成 28 年度、国家試験対策模擬試験作成を無事終了することができ、ご担当くださった全国の先生方に深く感謝申し上げます。平成 29 年度も、何卒、本委員会の活動をよろしくご支援いただきたいと心より願っている。